

# 施設利用等の提供

(515,415 千円)

## 1 産業会館管理運営事業

(自 348,600 千円)

### 【事業目的】

県立広島産業会館は、築 50 年の東展示館・本館、築 30 年の西展示館で構成され、施設の老朽化や展示場面積・駐車台数の不足などによる競争力の低下に直面している。このため、指定管理者である当財団は、今次指定管理期間(平成 28～令和 2 年度)の管理運営の基本方針を「リノベーションと活性化」として、中四国ブロックの中心都市に立地する県立展示場として相応しいハード・ソフト機能の拡充を進めている。

特に令和 2 年度は、開館 50 周年を迎えることから、これを記念する財団自主企画事業を企画し、①施設・サービスのリノベーション、②人口・産業集積と産業支援機関としての(公財)ひろしま産業振興機構の強みを活かした展示会の開催促進、③公平・公正で利用者の視点に立った管理運営、④安全・安心・快適な施設環境の提供 を 4 つの柱とする実施計画に盛り込んで、県の承認を得て実施する。

### 【事業概要】

- ① 施設・サービスのリノベーション ～ 駐車場案内板デザインプランに基づくリノベーション、東展示館ロビーのリノベーション
- ② 広島の強みを活かした展示会・イベントの開催(財団自主事業)  
～ 5 月広島ホームテレビ開局 50 周年・県立広島産業会館開館 50 周年記念/広島キルト & ステッショナー、8 月 開館 50 周年記念 トミカ博(RCC)、  
12 月 開館 50 周年記念 ひろしま AI・IoT 進化型ロボット展示会(事務局:財団)
- ③ 広島 BOX～メイド・イン・ひろしまギャラリー～の運営(年間 3 回の展示替え)、開館 50 周年記念誌の発行、広島 BOX 出展企業と小学生の交流体験事業
- ④ メッセひろしまギャラリーの運営(年間 3 回展示替え)及び県内在住クリエイターと県内企業の交流事業(広島 BOX・クリエイティブカフェ)
- ⑤ 広島地域展示会産業事業者連絡会議の開催 ～ 展示会産業事業者連絡会議の開催を通じたネットワーク構築とサポート体制の整備

指標	目標
施設のリノベーション	北駐車場案内板のリニューアル、東展示館ロビーのリノベーション(実施デザインプランの作成及びリニューアル実施)。
広島の強みを活かした展示会・イベントの開催(財団自主事業)	地元テレビ局と連携したイベント(5 月/広島キルト & ステッショナー、8 月/トミカ博)の開催、地域産業のイノベーションを支援する「ひろしま AI・IoT 進化型ロボット展示会」(2020 年 12 月)の開催について、開館 50 周年記念事業に位置付けて実施する。
広島 BOX～メイド・イン・ひろしまギャラリー～の運営	年間 3 回の展示替えを通じて「ひろしまブランド」の情報発信を行うとともに、開館 50 周年記念誌として、広島 BOX 出展製品を紹介する冊子を作成・配付する。また、広島 BOX 出展企業と地域の小学生との交流事業を行う。
広島地域展示会産業事業者連絡会議の開催	広島地域の展示会・イベントの開催促進に向けて、地域の関係事業者の情報共有と当館へのサポート体制の強化を図る。

**【年間目標】**

指標	目標
面積稼働率	50% 指定管理申請時の面積稼働率(目標値)は、5か年平均で48%、最高で51%としている。令和2年度は経済動向が不透明であるため、令和元年度と同様に50%とする。
利用者満足度	催事主催者アンケートの「満足度」 ・スタッフ対応 85%      ・施設・設備 65% ・開催目的の成果 60%      ・今後の利用意向 利用したい 90%
自主事業目標	ひろしま AI・IoT 進化型ロボット展示会(令和2年12月) 出展社 50社(R2 /40社)、来場者 3,800人(R2/3,500人)

**2 産業技術交流センター等管理運営事業 (県・自 145,128 千円)**

**【事業目的】**

公共的団体の事務室利用及び商工業者、産業関係諸団体への研修室等の貸出しなどにより、県内産業の振興に資する目的を一層増進させるため、「産業技術交流センター」の適正な管理運営に努める。併せて「広島県情報プラザ」の一体的な施設管理にあたる。

**【事業概要】**

- 1 貸会場、有料駐車場の運営
- 2 広島県情報プラザ全体の施設管理

指標	目標
貸会場の運営	研修室等6会場、事務室(R2.1月現在9団体)及び一般来客者用(85台)・入居団体用(14台)駐車場の運営。
情報プラザの施設管理	県の長期保全計画を基本とし、情報プラザの計画的な施設機能の維持。

**【年間目標】**

指標	目標
研修室等の利用件数	年間 1,400件 (指定管理期間の平均値)

**3 インターネット各種支援情報等提供事業 (県 15,832 千円)**

**【事業目的】**

現状	○財団の情報処理システムは、H29.3に共有ファイルサーバ等の更改を行って以来、システムの見直しを進めていない。
課題	○クラウドサービスなどの急速な技術発展に伴い、財団の情報処理システムは相対的に非効率化・低機能化しつつある。
目的	○効率化・高機能化が進むクラウドサービスを活用することで、財団の情報処理システムを効率化・高機能化を実現し、財団業務の効率化、情報収集力・発信力の強化を図る。

**【事業概要】**

- 財団情報処理システム（Hiwaveシステム）、ネットワーク環境の保守運用管理
- Hiwaveサーバー上で構築した財団ホームページの運用管理
- 経済誌、業界紙等の購入による情報収集
- Hiwave システムの見直し

事業項目	概要
HIWAVE システム、ネットワーク環境の保守運用管理	財団職員が使用・作成する業務用データの共有ファイルサーバ等を維持管理し、現状の業務処理環境を継続する。
財団 HP の運用管理	外部中小事業者に向けた財団実施事業の情報発信を行う。
情報収集	経済誌、業界紙等から、財団職員の業務に関連した情報収集を行う。
Hiwave システムの見直し	クラウドサービス等の活用による Hiwave システムの効率化・高機能化を行う。

**【年間目標】**

指標	目標
Hiwave システムの見直しと現行システムから新システムへの円滑な移行	Hiwave システムの見直しを実施し、財団の業務に停滞が生じることなく円滑に新システムへの移行を目指す。

**4 中小企業大学校広島校運営協力事業**

(県 4,195 千円)

**【事業目的】**

現状	○中小企業の経営者、後継者等は、各自個別に経営力の研鑽に取り組んでいる。
課題	○各自個別の取組では、人材育成の効果は十分に発揮されないことが多く、専門家による体系的なカリキュラムでの経営力の研鑽が必要。

**【事業概要】**

- 養成研修の企画業務
- 研修生の受け入れ、募集事務及び身分取り扱いに関する事務
- 研修生の規律及び福利厚生等に関する事務
- 中小企業等の人材育成支援に関する業務

**【年間目標】**

- 派遣の継続

## 5 情報誌等発行事業

(自 1,660 千円)

### 【事業目的】

現状	○財団の賛助会員に対する会費還元事業として情報誌「産振構ニュース」の発行を行い、財団と賛助会員の関係継続のツールとしている。
課題	○毎年度、賛助会員の退会が数件程度発生しており、情報誌の発行活動を通じて、会員退会の防止を図る必要がある。 ○賛助会員の特典としても位置付けられているが、会員にとってより有益な情報発信となるよう見直す必要がある。
目的	○情報誌の企画制作での、取材活動、記事掲載の勧誘活動を通じて、支援先事業者とのコミュニケーション活動を活発化させ、賛助会加入の継続、さらに加入促進に努め、財団事業の理解者の増大を図る。 ○賛助会員特典の見直しと合わせて、情報発信の在り方を検討し、会員への有益な情報発信を図る。

### 【事業概要】

- 年4回(6月9月12月3月)情報誌を発行
- 取材企業を財団が選定し、委託事業者のライターが特集記事2件を制作
- 企業の新製品情報の掲載を受け付けるとともに、財団側からも記事掲載の勧誘活動を実施。

事業項目	概要
取材活動及び記事掲載勧誘活動	○財団が支援してきた事業者を取材対象者としてピックアップし、記事化する。 ○それまでの支援関係を前提とし、さらに取材活動等を通じて財団と事業者の関係性を強め、賛助会加入の提案など、財団事業への理解強化の機会として活用する。
情報発信の在り方検討	○財団プロパー職員を中心とした検討の場を設け、賛助会員特典の見直しと合わせた情報発信の在り方を検討する。

### 【年間目標】

指標	目標
賛助会員の新規加入	○1件(令和元年度実績0件)
情報発信の在り方検討	○会員への有益な情報発信の在り方を検討し、発信内容及び発信手段の改善を図る。